花を軸とした広域における
象徴的な公園のイメージ

令和３年４月

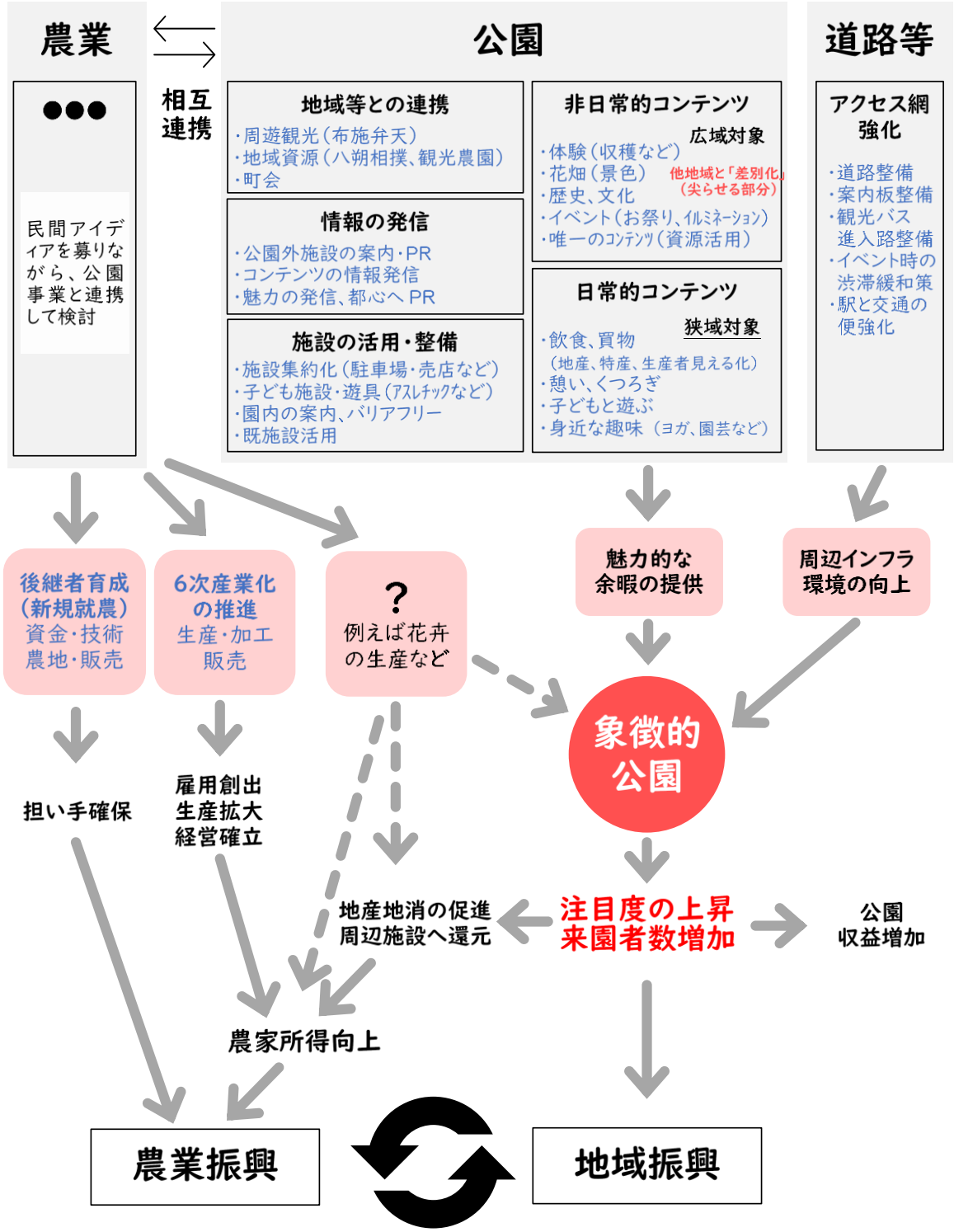
柏市

本資料は，令和３年４月時点の考えであり，本業務により内容を精査するものである。あくまで市内部における検討段階の資料であり，事業内容やスケジュールなどは，確定したものではない。

1．今までの地域との議論

今まで地域とは，農政部局が中心となり，数多くの議論を重ね将来像を描いてきた。下記は，その意見（青字）を体系化したものである。

視点は大きく分類すると，「農業」，「公園」，「道路」の３点であり，道路が整備され，公園自体が象徴的公園となることが，地域振興，しいては農業振興につながるという考えである。一方，周辺農地（農業）の部分に関する意見は，一般的な意見であり，地域性を踏まえた具体な意見ではない。そのことから，農業に関しては公園事業との相乗効果を生むような事業が望ましい。



２．公園の方向性について

今までの地域との議論に加え，令和２年度から，現指定管理者や様々な民間事業者にヒアリングを行い，公園の方向性について，庁内で検討を進めてきた。

この検討の結果，本公園は，少なくとも柏市周辺の鉄道沿線エリアから，注目・来園されるような「象徴的公園」を目指すこととした。市外の人も含む多くの人が注目する，もしくは来園することで，市民の公園に対する認知やイメージを高め，最終的に市のイメージ向上や市民の市に対する愛着・誇り・共感を高めることを目指している。

３．公園の軸について

象徴的公園の軸は，以下の５つの理由から「花」を軸に設定した。

１つ目　あけぼの山における花の歴史があること

当該地域は花に関わってきた歴史も古く，あけぼの山公園の地は，布施弁天と対し利根川に近く，遠くに筑波山を臨む景勝の地であり，春には桜が美しい花を咲かせるなど，古くから多くの人に愛されてきた。一方，あけぼの山農業公園におけるチューリップの風景は，市の顔ともなっており，本公園が開園した平成６年から現在に至るまで，地元の富勢ふるさと地区農園営農組合と連携したチューリップなどの花の植栽を行っている。

あけぼの山公園

昭和46年4月開園・桜まつり開始

－ 古くから多くの人に愛され、地元の人に守られてきた「桜」の景勝地 －

文献からは、明治33年（1900）に後藤七郎兵衛らが、寄付金を募り、桜を植栽したことの記述もみられる。

あけぼの山農業公園

平成6年4月開園・チューリップ植栽

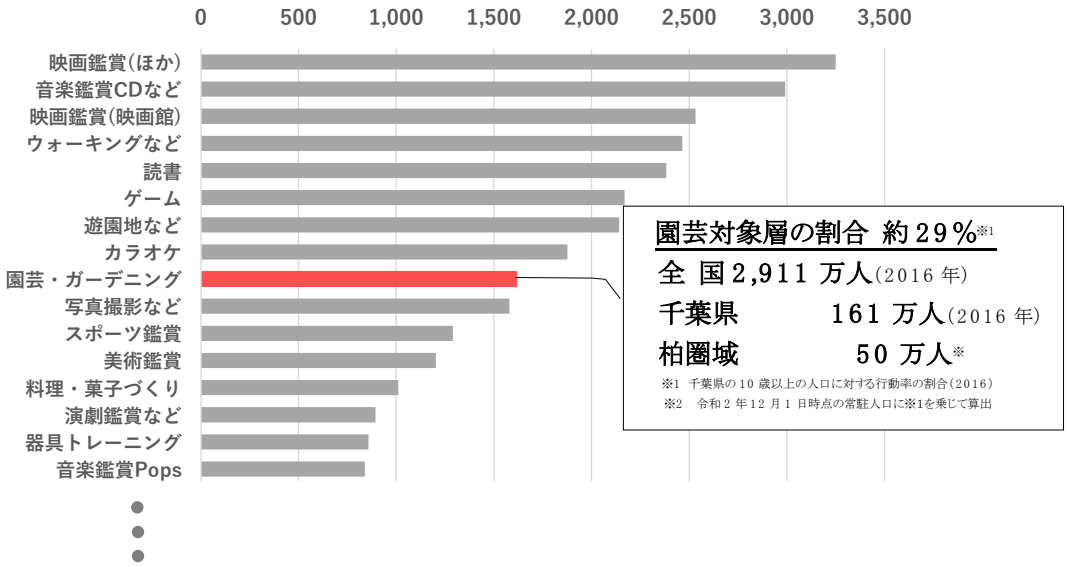
－ 公園に多くの都市住民が来ることで、農業振興・地域振興につなげる －

高まる「自然や土とのふれあいを求める市民ニーズ」への対応、都市住民と農家の交流を通して、都市農業振興を図る。

２つ目　園芸・ガーデニングの対象層が非常に大きいこと

多様な余暇（56 分類）の中で，対象層が非常に多く，また柏市における「カシニワ制度」や周辺地域を含めたオープンガーデンが盛んな地域であり素地がある。

社会生活基本調査 2016 における千葉県のデータ（総務省）



３つ目　花自体は古くから様々な機会を通じて使われてきたこと

古くから現在に至るまで，「花」は様々な機会を通じて，多様な分野で利用されてきた非常に身近な存在であり，流行り一過性の分野ではない。

４つ目　連携の可能性のある企業や大学がいること

本公園及び市内には，日本有数の経験や技術，知識を持つ民間や学術機関が存在しており，他市や他地域と比較して，かなりの優位性がある。

５つ目　常磐経済圏には同様のコンテンツを提供している施設がないこと

コア層にも訴求できるコンテンツを提供できれば，更に広範囲の地域からの来園・注目も期待できる。

４．公園の将来像について

花を中心として，様々な取組が展開されるよう，花卉業界の民間企業や学術機関と連携し，他の地域にはない，真似のできないものを目指す。

以下はイメージであり，事業者ヒアリングを通じて，より具現化可能な形に整理していく。

・コア層を対象とした尖ったコンテンツを提供する。
　→あけぼの山地域でしか見る事の出来ない花や風景

・日常的に来園するような仕掛けを行う。
　→花だけでなく，地元の野菜や日用品，家具などが購入できき，飲食，カフェなども複合的にある魅せる店舗
　→コア層を対象とした講座や体験など

・居心地のいい空間を創出する。
　→レストランやカフェなどの店舗と連携した芝生や遊び場などの空間
　→各エリア（花畑，公園，農地など）が一体となるような仕掛け

・周辺農地と相乗効果を生むような仕掛けを行う。
　→様々な花卉の事業者が参入するような学術研究機関とも連携した仕組み
　→民間アイディアによる営農組合とも連携した新たなコンテンツ

・SDGs やインクルーシブなどの視点を取り入れる。

５．予定している取組み等

取組①　指定管理者と連携した公園内の花の植栽に関する実証

▷令和３年３月～４月

・約２０の花（約１００園芸品種）を約５００本，地植え，鉢植えで，園内に植栽する。

・日向，日陰等の四季を通じた生育状況，管理に関して，約１～２年観察する。

取組②　カフェと連携した花植栽の取組

▷令和３年３月より開始

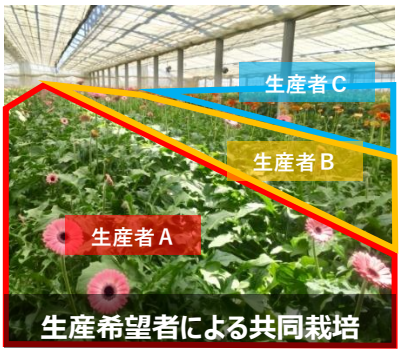
・指定管理者が展開するリニューアルされた食堂＆BBQ（あけぼのビーチパーク）と連携し，花の風景を作っていく。

取組③　民間企業による花生産（民地農地）

▷時期未定

・花の生産（温室＋露地）と試験圃場（市民開放）を事業として展開する。

・最大面積約５ヘクタール規模程度を想定している。



取組④　個別民間ヒアリング等を委託により実施

▷令和３年７月契約

・民間アイディアを多く得ることを目指す。

・多くの民間事業者に興味を持ってもらうよう広報する。

・民間事業者と連携による事業の具現化に向けた条件整理する。

取組⑤　公園の管理運営所管を都市部へ一元化

▷令和３年４月１日より

・「公園が賑わうことによって，農業振興や地域振興に寄与する」というあけぼの山農業公園本来の目的を更に進めるため，都市公園化し，民間による魅力的なコンテンツ（余暇）の提供を目指す。

・あけぼの山公園（都市部）及びあけぼの山農業公園（経済産業部）の２公園の管理運営を都市部へ一元化※1する。更に令和４年度以降に都市公園へ移行※2し，２公園の統合も検討する。

※１　営農組合が管理運営する土地に関しては，令和４年度以降に都市部へ統合する。

※２　都市公園化する基本的な範囲は，市が所有する土地を対象とする。

取組⑥　あけぼの山パークマネジメントプランの作成

▷令和３年度中

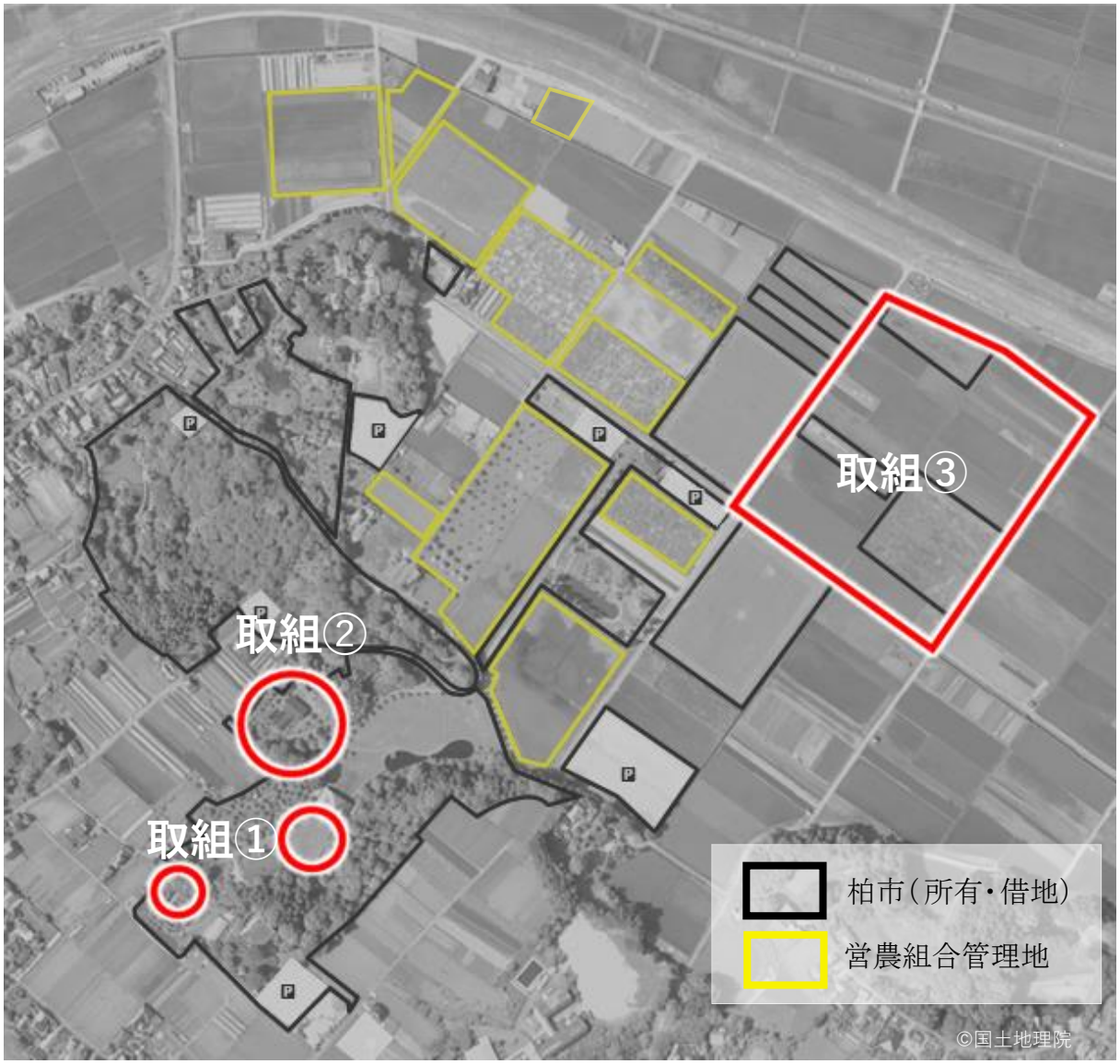
・民間企業の募集にあたって，市の考えを示すパークマネジメントプランを策定する。

・策定にあたっては，過去の地域の意見や取組み④の民間意見を踏まえた内容とする。

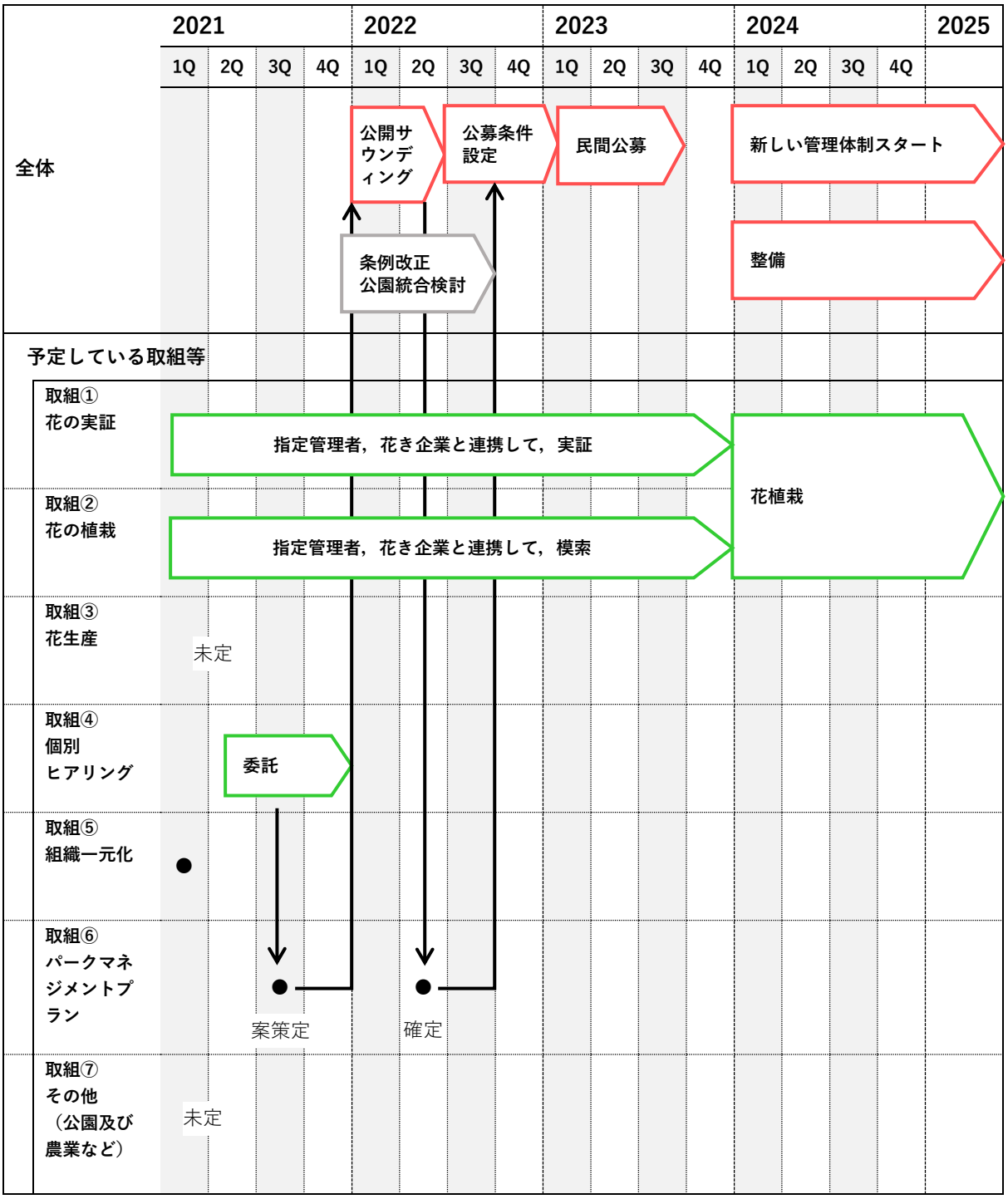
取組⑦　その他（公園・農業）

▷時期・内容未定

・本業務等によって得られた公園及び農地における事業や取組のアイディアも含めて，事業化の検討を随時行っていく。



6．スケジュール（予定）


2021
2022
2023
2024
2025
1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q 1Q 2Q 3Q 4Q
全体
公開サウンディング
公募条件設定
民間公募
新しい管理体制スタート
条例改正
公園統合検討
整備
予定している取組等
取組①
花の実証
指定管理者，花き企業と連携して，実証
取組②
花の植栽
指定管理者，花き企業と連携して，模索
花植栽
取組③
花生産
未定
取組④
個別
ヒアリング
委託
取組⑤
組織一元化
取組⑥
パークマネジメントプラン
案策定
確定
取組⑦
その他
（公園及び農業など）
未定